

大牟田市立白光中学校

1 本校のESDの特徴

本校は、「徳・知・体が調和的に発達し、人間性豊かな生徒を育成する」を学校教育目標とし、持続可能な開発のための教育（ESD）を本校教育の中心と捉え、ESDの実践を通して、①批判的に考える、②未来像を予想して計画を立てる、③多面的・総合的に考える、④コミュニケーションを行う、⑤他者と協力する、⑥つながりを尊重する、⑦進んで参加する、などの能力や態度を育成することを目標としている。





そして、生徒が地球規模の課題を自分のことと捉え、課題を見だし、課題の解決に向けた新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会の担い手として、誰もが住みよいまちづくりを考え、行動するなど、持続可能な社会を創造していくことのできる生徒の育成を目指している。

主な学習内容は、①福祉学習、②世界遺産学習、③生き方（進路）に関する学習であり、総合的な学習の時間（白光タイム）を中心に、全教科、領域において横断的、総合的な取組を推進している。

大牟田市は、大牟田版SDGsを設定しており、重点目標を3、4、7、11、12、13、14、15、16、17としている。本校では生徒や地域の実態、これまでの実践を踏まえながら、令和元年度は、白光中学校版SDGsとして、「3：すべての人に健康と福祉を」「4：質の高い教育をみんなに」「11：住み続けられるまちづくりを」「17：パートナーシップで目標を達成しよう」の4つを設定し、重点的に取り組んでいる。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

※授業時数は、総合的な学習の時間、他教科を含む。

学年	学習内容(実施時期)	授業時数	テーマ・SDGs
1年	認知症学習「絵本教室」、寸劇づくりの取組と発表（5～6月）	20時間	福祉学習  
	高齢者福祉施設体験学習（10～11月）	22時間	
	高齢者擬似体験学習（1～2月）	6時間	
2年	職場体験学習（5～6月）	24時間	生き方（進路）に係わる学習 世界遺産学習  
	世界遺産学習（10～2月）※修学旅行自主研含む	44時間	
3年	上級学校訪問・職業ガイダンス（5～6月）	19時間	福祉学習 生き方（進路）に係わる学習    
	保育体験学習（10～11月）	24時間	
	生き方（進路）に関する学習（12～2月）	17時間	

＜その他、地域や大牟田市と連携した取組＞

- 「認知症SOSネットワーク模擬訓練」白川校区（3年生参加：11月）
- 「おおむた認知症カフェシミ公開講座」「認知症サポーター養成講座」における寸劇発表（1年生参加：7・8月）
- 「ユネスコスクール・ESD子どもサミット」白光クッキー社収益金の被災地への寄贈（1月）
- 地域行事への参加（明治校区ふれあい祭、手鎌地区校区ふれあい文化祭、それいゆ祭など）

3 特徴的な活動事例

(1) 1年生「福祉学習」

第1学年は、SDGsとして「3：すべての人に健康と福祉を」「11：住み続けられるまちづくりを」の2つを設定し、「福祉学習」に取り組んだ。具体的には、

高齢者や認知症に対する理解を深めるために、認知症学習「絵本教室」や「寸劇づくり」、実際に高齢者福祉施設を訪問し、高齢者とふれ合う「高齢者福祉体験学習」などを計画・実施した。



【寸劇発表の様子】



【高齢者福祉施設訪問】

さらに、高齢者擬似体験学習（車いす、アイマスク体験等）を踏まえ、誰もが住みよい町づくりに向けての行動化を目指した学びを深めた。



(2) 2年生「世界遺産学習」「生き方（進路）に係わる学習」

第2学年は、SDGsとして、「11：住み続けられるまちづくりを」「17：パートナーシップで目標を達成しよう」の2つを設定し、「生き方（進路）に係わる学習」と「世界遺産学習」に取り組んだ。

「世界遺産学習」では、大牟田市役所や有明高専の講師の方から、大牟田の宝である世界文化遺産や石炭に関連する講話を聞いたり、宮原坑や三川坑跡などを実際にまわったりして、大牟田の宝である世界文化遺産のすばらしさを実感することができた。そして、そのすばらしさを伝え保存していくことの大切さに気づくことができた。さらに、修学旅行における京都・奈良の世界遺産学習をもとに、大牟田のよさを再発見し、それを発信していく方策を考案中である。



【三川坑跡見学】

また、「生き方（進路）に係わる学習」としての「職場体験学習」では、地域の暮らしや産業・経済を支えているさまざまな職場に出向き、実際に働く体験をとおして、自分の生き方や進路を考えることができた。



(3) 3年生「福祉学習」「生き方（進路）に係わる学習」

第3学年は、SDGsとして「3：すべての人に健康と福祉を」「4：質の高い教育をみんなに」「11：住み続けられるまちづくりを」「17：パートナーシップで目標を達成しよう」の4つを設定し、「福祉学習」と「生き方（進路）に係わる学習」に取り組んだ。

「生き方（進路）に係わる学習」としての「上級学校訪問」や「職業ガイダンス」では、実際に高校を訪問し、高校生活をイメージしたり、様々な職業に関する話を専門家から聞いたりすることで、将来の進路について具体的に考えることができた。



【保育体験学習】

「福祉学習」としての「保育体験学習」では、幼稚園や保育所をグループに分かれて訪問し、幼児とふれ合う中で、自分の成長を振り返るとともに、他者への思いやりや互いに支え合いながら生きていくことの大切さを実感させ、地域（社会）に貢献しようとする意識を高めることができた。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・各学年で各テーマに基づき、系統的に学習を積み上げることができたことで、生徒は、多面的・総合的な視点を持ち、自分のことだけでなく、積極的に他者と関わりをもとうとしたり、地域や社会の現状などにも関心を持ち、課題に気づいたりすることができるようになった。また他者と協力したり人や地域とのつながりに気づいたり、その重要性を認識したりすることができるようになった。
- ・保護者や地域の方々に対し、ユネスコスクールとしてのESDの取組をとおした生徒の学びや成長した姿を各種通信やHP、授業参観等で積極的に紹介することができ、SDGsの達成を目指した本校教育に対する関心を高めることができた。

○課題

- ・中学3年間の系統性や発展性を重視して、各学年のテーマ（福祉・世界遺産・生き方に係る学習）に基づいた学習内容や年間計画を順次、見直し、ESDカレンダーを修正する。
- ・将来、大牟田市（地域）を担う人材を育てるという視点を教師自身が常に意識するとともに、生徒自身が大牟田市や地域の現状を見直し、改善に向けて行動に移すことができるように、生徒の実態に即した体験活動を見直し、計画・実施していく必要がある。
- ・本校のユネスコスクールとしてのESDの取組をもとに、国内でユネスコスクールとして活動している小・中・高等学校との交流を進める手立てを考案する。